

経済・金融  
フラッシュ12月 BOE 金融政策委員会:100bp  
の追加利下げで政策金利は2%に

経済調査部門 主任研究員 伊藤 さゆり

TEL:03-3512-1832 E-mail: ito@nli-research.co.jp

イングランド銀行は3~4日に金融政策委員会(MPC)を開催、11月の150bpの大幅利下げに続く、100bpの利下げを決めた。声明文では、「景気後退のペースは加速」しており、「マネー・信用市場の緊張は続いているため」、「一層の対策がなければ貸出は正常化しない」、「中期的に2%のインフレ目標を下回るリスクが高まった」と追加利下げの理由を説明した。

今回の利下げで政策金利は2%と1951年以来の歴史的な低水準に達したが、雇用調整の加速による住宅市場と内需の冷え込みは今後さらに進むと予想されることから、2009年入り後もBOEの利下げは継続、09年上半期中に1%を割り込む可能性も高まってきた。

**( 景気後退ペースは加速、インフレ目標を下回るリスクが高まったと判断 )**

イングランド銀行(BOE)は、4~5日に金融政策委員会(MPC)を開催、11月の150bpの大幅利下げに続く100bpの利下げを決めた。利下げ後の政策金利は2%となった。

11月19日に公開された前回のMPC議事録では、「インフレ報告」による分析の結果<sup>(注1)</sup>として、中期の物価目標の達成には200bp以上の利上げが必要<sup>(注1)</sup>だが、①11月24日公表のプレバジェットの内容、②金融安定化策の効果、③大幅利下げが市場に与える影響を見極める必要があるとして150bpの利下げ幅で全員が一致したことが明らかになっていた。このため、今月もBOEの追加利下げは確実視されていた。

今回の声明文では、「景気後退のペースは加速」しており、「公的資本注入や資金調達支援、流動性強化などの対策でもマネー・信用市場の緊張は続いているため」、「一層の対策がなければ貸出は正常化しない」との判断が示された。また、11月の「インフレ報告」での見通し後の変化のうち、利下げとポンド安(図表1)はインフレ上押し圧力、一層の景気後退(図表2)と商品価格の下落は下押し圧力であり、プレバジェットで明らかにされた総額200億ポンド(GDP比1.4%)の景気対策は「予測期間中のインフレ率に大きな影響を及ぼすものではない」とした上で<sup>(注2)</sup>、「中期的に2%のインフレ目標を下回るリスクが高まった」と追加利下げの理由を説明した。

(注1)「インフレ報告」11月号で政策金利を3%で維持した場合、「09年は景気後退が続き、中期的にインフレ率は目標を1%程度下回る」という見通しが示されていた。

(注2)景気対策の柱である2009年末までの付加価値税(VAT)率の2.5ポイントの引き下げの物価への影響は「2009年いっぱいにはインフレ率を押し下げる一方、2010年には物価を押し上げる」とした。

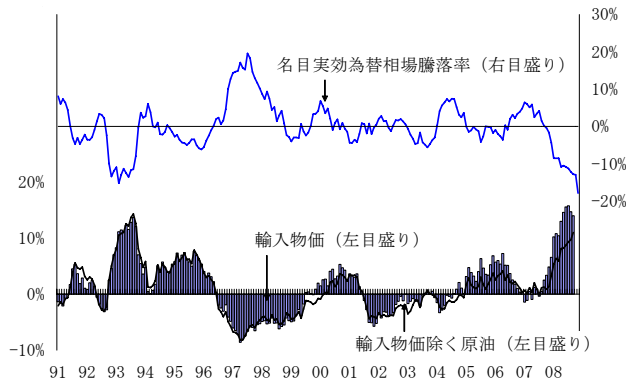
## （ 視野に入ってきた政策金利の1%割れ）

前回のMPC以降も、外部環境は一段と悪化し、イギリス国内でも住宅市場の調整がさらに進行（図表3）し、雇用・所得環境の悪化とCPIのピーク・アウト（9月前年同月比5.2%→10月：同4.5%、図表4）が一層鮮明になっている。

今回の利下げで政策金利は2%と1951年以来の歴史的低水準に達したものの、今後、雇用調整の加速による住宅市場と内需の冷え込みがさらに進むと予想されることから、2009年1月7日～8日開催の次回MPCでも追加利下げが行われ、09年上半期中に1%を割り込む可能性も高まってきた。

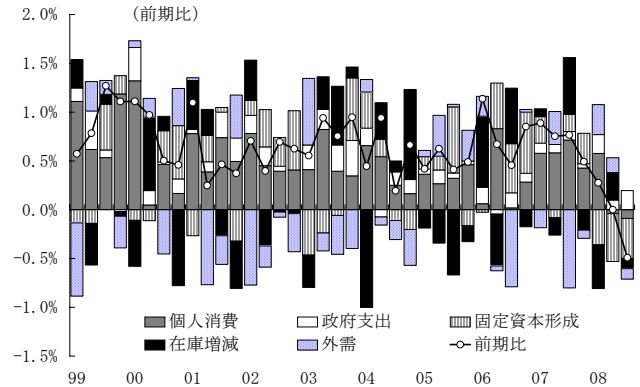
なお、今月17日に今回のMPCの議事録が公開される。今回の利下げ幅決定を巡ってどのような議論が行われたのか、次回以降のMPCでの利下げの幅やペースを判断する材料として注目したい。

図表1 イギリス：輸入物価と名目実効為替相場



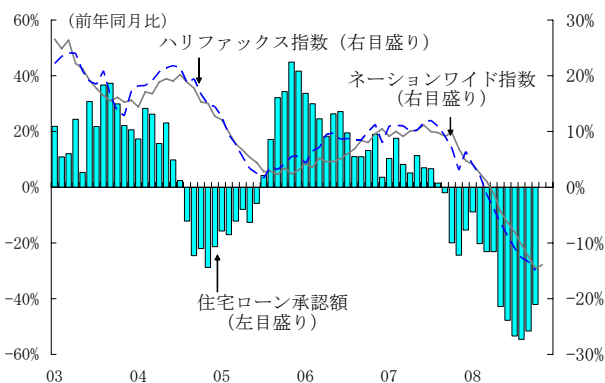
（資料）ONS、BOE

図表2 イギリス：GDP成長率



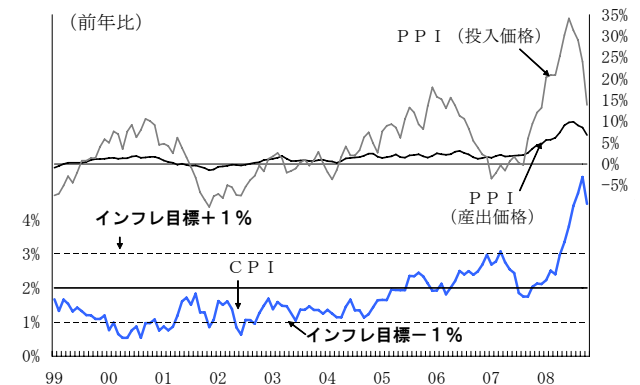
（資料）ONS

図表3 イギリス：住宅価格指数と住宅ローン承認額



（資料）ONS

図表4 イギリス：インフレ指標



（資料）ONS

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。